

平成12年度 陵墓関係調査報告

陵墓調査室

調査の概要

陵墓調査室では、古代高塚式陵墓及び埋蔵文化財包蔵地内における陵墓の保全・整備のため緊要な土木工事等を実施するに当たって、施工区域・箇所・遺構・遺物の有無を確認し、工法決定に資するために事前調査・立会調査を行っている。平成12年度も各陵墓監区事務所と協力して次の区域・箇所において調査を行った。

[事前調査]

- 1 玉津陵墓参考地（神戸市西区王塚台3丁目）墳丘裾・外堤内法裾護岸工事区域の事前調査
桃山監区、9・10月実施、担当 徳田誠志・清喜裕二
- 2 聖徳太子磯長墓（大阪府南河内郡太子町大字太子 叡福寺内）内「結界石」緊急保存処理事業（第2年次）区域の事前調査
古市監区、12月実施、担当 北條朝彦・多田京介・安岡徹悦

[立会調査]

- 3 仁賢天皇埴生坂本陵（大阪府藤井寺市青山3丁目）拝所排水管改修工事箇所の立会調査
古市監区、6月実施、担当 松尾 浩・佐々木靖秋
- 4 武蔵陵墓地（東京都八王子市長房町）内香淳皇后大喪儀に伴う埋蔵文化財調査
多摩監区、6～11月実施、担当 福尾正彦・徳田誠志・佐藤利秀・清喜裕二、
- 5 豊島岡墓地（文京区大塚5丁目）内香淳皇后大喪儀に伴う埋蔵文化財調査
多摩監区、6・7月実施、担当 福尾正彦
- 6 神武天皇畝傍山東北陵（奈良県橿原市大久保町）第3鳥居改築工事箇所の立会調査
畝傍監区、8月実施、担当 福富 彰・三井朋宏・西田哲也・小走泰弘
- 7 智成親王墓（京都市左京区北白川丸山町）下水道工事箇所の立会調査
月輪監区、9月実施、担当 福尾正彦・竹村哲也・奥野 肇
- 8 磐衝別命墓（石川県羽咋市川原町 羽咋神社内）外構柵改修工事箇所の立会調査
月輪監区、9月実施、担当 清喜裕二・藤本 寛
- 9 桃山陵墓監区事務所（京都市伏見区桃山町古城山）床整備その他工事箇所の立会調査
桃山監区、10月実施、担当 北村浩二・玉石直裕・宮田一弘・高繁伸
- 10 仁徳天皇百舌鳥耳原中陵（堺市大仙町）濠水漏水対策事業箇所の立会調査
古市監区、11月実施、担当 富賀 稔・小谷武史・部職員応援
- 11 後宇多天皇蓮華峯寺陵（京都市右京区北嵯峨朝原山町）透塀改築その他工事箇所の立会調査
桃山監区、11月～1月実施、担当 田端勝一・平木和史・松岡和男・今出伸一

- 12 元正天皇奈保山西陵（奈良県奈良市奈良阪町）見張所改築工事箇所 の立会調査
畝傍監区、12月・3月実施、担当 福尾正彦・本多 均・米谷有朋・松岡隆行
- 13 清寧天皇河内坂門原陵 飛地い号（大阪府羽曳野市西浦1丁目）境界線保護工事箇所 の立会調査
古市監区、12～2月実施、担当 徳田誠志・浅井良寛・熊谷友宏
- 14 聖徳太子墓（大阪府南河内郡太子町大字太子 叡福寺内）内中段「結界石」緊急保存処理事業（第2年次）区域の立会調査
古市監区、12～3月実施、担当 北條朝彦・多田京介・安岡徹悦
- 15 豊島岡墓地（文京区大塚5丁目）参集所外灯他改修工事箇所 の立会調査
多摩監区、1月実施、担当 福尾正彦
- 16 古市陵墓監区事務所（大阪府羽曳野市誉田6丁目）庁舎漏水補修工事箇所 の立会調査
古市監区、1月実施、担当 近藤時男・仲田裕行
- 17 鳥羽天皇皇后璋子花園西陵（京都市右京区花園扇野町）見張所改築工事箇所 の立会調査
桃山監区 1・2月実施、担当 徳田誠志・坂本博史・市川雄基
- 18 垂仁天皇菅原伏見東陵（奈良県奈良市尼辻西町）防災整備工事区域の立会調査
畝傍監区、1・2月実施、担当 清喜裕二・佐藤利秀・山本昌弘・今井隆太郎
- 19 後龜山天皇嵯峨小倉陵（京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町）鳥居改築工事箇所 の立会調査
桃山監区、1・2月実施、担当 今出伸一・平木和史
- 20 称徳天皇高野陵（奈良県奈良市山陵町）鳥居改築工事箇所 の立会調査
畝傍監区、1～2月実施、担当 今井隆太郎・長濱匡洋
- 21 允恭天皇惠我長野北陵 飛地は号（大阪府藤井寺市国府1丁目）境界線保護工事箇所 の立会調査
古市監区、1～3月実施、担当 笠野 毅・清喜裕二・近藤時男・仲田裕行
- 22 懐良親王墓（熊本県八代市妙見町）仮柵設置工事箇所 の立会調査
桃山監区、2月実施、担当 西村英樹・宮田一弘・長濱俊男・中川幸信
- 23 豊島岡墓地（文京区大塚5丁目）内章子内親王墓・多喜子内親王墓鳥居改築工事箇所 の立会調査
多摩監区、2月実施、担当 福尾正彦
- 24 守脩親王墓（京都市東山区泉涌寺山内町）上水道管漏水復旧工事箇所 の立会調査
月輪監区、2月実施、担当 鎌田幹史・山本在大
- 25 （河内）白鳥陵（大阪府羽曳野市軽里3丁目）堤防 電柱取設工事箇所 の立会調査
古市監区、2月実施、担当 浅井良寛・山本良文
- 26 慶頼王墓（京都市左京区吉田牛ノ宮町）墓名石標改修工事箇所 の立会調査
月輪監区、3月実施、担当 竹村哲也・岡田日出男
- 27 宇治陵30号地（京都府宇治市木幡）・31号地（同市木幡）石標埋設工事箇所 の立会調査
桃山監区、3月実施、担当 石塚俊光・藤原雅人

- 28 繼體天皇三嶋藍野陵 飛地ろ号（大阪府茨木市東太田4丁目）・は号（同市太田3丁目）・に号（同）・ほ号（同）・へ号（同市高田町）・と号（同）石標埋設工事箇所の立会調査
 桃山監区、3月実施、担当 玉石直裕・坂井洋介・畑 隆夫
- 29 宣化天皇身狭桃花鳥坂上陵（奈良県橿原市鳥屋町）樋管改修工事箇所の立会調査
 畝傍監区、2・3月実施、笠野 毅・西田哲也・小走泰弘・北村 豊
- 30 神武天皇畝傍山東北陵（奈良県橿原市大久保町）見張所電気引込線改修工事（畝傍陵墓監区事務所環境整備工事）箇所の立会調査
 畝傍監区、3月実施、担当 福富 彰・三井朋宏
- 31 磐園陵墓参考地（奈良県大和高田市大字築山）整備工事区域の立会調査
 畝傍監区、3月実施、担当 清喜裕二・福島由有・古河稔也・大塚由之

事前調査のうち1については報文を後掲する。立会調査のうち4・5・7・8・12～15・17・18・21・23・29・31は調査室員が調査に参加したもので、14・15・23・29を除いて報文を後掲する。

その他の調査結果は、以下の通りである。但し2・14は、継続事業であるので、事業終了後に詳細を報告する予定である。

- 2 保存処理予定区域（第31～175号の145基）に小トレンチを2箇所設けて「結界石」根入状況を調査した。基本的な層序は、I層：表土、II層（結界石の墳丘側）：カワラケ・燻瓦等を多く含む暗黄褐色砂質土、II'層（結界石の墳麓側）：灰褐色砂質土、III層：堅く締まり、凝灰岩細片を含む明灰褐色砂質土、IV層：斑に明灰色を呈する部分があるバイラン土風の明褐色粘質土で、II層以下はそれぞれ二次的な盛土又は墳頂からの流出堆積土、墳丘盛土、地山と考えた。「結界石」はおおむねIII層（部分的にII層）を若干掘込んで埋設されていたが、「結界石」の下に根石を据えたり、墳丘側に根石と同じ川原石が続いて配されている部分もある。また一部ではIII層直上に黒色土層があってその下部に骨片・炭片が認められ、上部には川原石を置いた上に貫銭を載せた一枚の瓦があった。火葬墓かと考えられるが、未確認。
- 3 見張所前の参道部分は、地山と、一般拝所は、拝所整備時の盛土、一部ではその下が地山と考えられる。
- 6 掘削範囲内は、在来鳥居の埋戻土であった。
- 9 電話線埋設箇所（監区事務所～着替所）は、表土下が盛土（攪乱土）であった。水銀灯改修箇所（監区事務所北側）は、大半がすでに攪乱されていた。掘削床面付近に茶褐色砂層が確認されたが、盛土か地山か性格不明。
- 10 掘削範囲は、余水吐石積裏側に貼られたゴムシートの上に収まった。
- 11 小土堤石積改修箇所は、地山の可能性がある角礫を多く含む赤褐粘質土層の上に盛土と考えられる黄褐色粘質土層が厚く載る。正門東側控石柱取替箇所は過去に掘削した埋戻土で、掘削床面付近は瓦溜であった。瓦は燻瓦で、割口は鋭く、新しい。
- 14 結界石の掘出は、上述のI・II・II'層の範囲内に収まった。

- 2の事前調査とこの立会調査の結果、カワラケ約80片、燻瓦約120片、古銭（寛永通宝等）約50点（うち約40点は貫銭状態で出土）、馬型ミニチュア土製品1点、土製小仏像1点、筒状金属製品1点、陶器3片等が出土した。
- 15 正門脇の外灯改修箇所はすでに攪乱されており、床面付近からもコンクリート片が多数出土し、墓地内進入路沿い屋外電源設備（墓地方面電源設備）部分改修箇所では厚さ15～20cmにも及ぶ表土下に黄褐色土の小ブロックを含む黒色土の盛土があった。表土中から磁器2片出土。
- 16 監区事務所玄関横を掘削し、同基礎掘方の埋戻土と考えられる赤褐色土を確認した。
- 19 掘削範囲は、過去の鳥居建替時の埋戻土と拝所整備時の盛土かと考えられる。床面の一部に地山が認められた。
- 20 表土下は在来鳥居の攪乱層であり、その下（表土下約0.8m以下）は地山と考えられる締まった灰褐色粘質土。遺構は検出されなかった。
- 22 表土下には、礫混り茶褐～黄褐色粘土層があり、攪乱層または参道整備時の盛土と思われる。
- 23 掘削範囲は両所とも既存鳥居建立掘方内に収まり、表土下はその埋戻土であった。
- 24 拝所白砂層及び参道アスファルトの下は、粘質土で、既設水道管取設工事の際の埋戻土と考えられる。
- 25 表土下は、割栗石を含む黄褐色砂質土で、盛土または流出堆積土と考えられる。
- 26 表土（黒色砂利層）下は、拳大の礫を含む黒色粘質土層、豆大の礫を含む茶褐色粘質土層で、ともに過去の石標設置・石柵設置などの埋戻土と考えられる。
- 27 両所とも、上半部が明黄褐色粘質土の盛土、下半部が同質の地山と考えられる。
- 28 飛地各号とも表土下に墳丘流出土や攪乱土と思われる土層があって、ほ号以外の各号ではその下に墳丘盛土かと疑われる土層が検出され、ろ号・に号・と号では墳丘盛土かと疑われる土層の直上に径10～30cmの礫を多量に含む層があって葺石の疑いが存する。
- 29 掘削範囲は、舗装・碎石等の下が既設の樋管を埋設する際の埋戻土であった。
- 30 掘削範囲は、攪乱層とその下の盛土層で、遺構は検出されなかった。
- 31 掘削したのは、括部北側渡土堤の東法裾で、最近の堆積土に限られた。

平成12年度におけるその他の調査の概要は、本誌の彙報にゆずる。